

平成 27 年 3 月 23 日

(公財)日本セーリング連盟
加盟団体・特別加盟団体 御中

(公財)日本セーリング連盟
ルール委員会
委員長 増田開

かけ声「プロテスト(抗議)」等の国内大会での英語化について

日本セーリング連盟(JSAF)は従来、抗議の要件の一つである競技中のかけ声「プロテスト(抗議)」(セーリング競技規則 61.1(a)参照)について、国際標準用語「プロテスト」の使用を推奨しつつも、日本人セーラーに浸透していた「抗議」のかけ声も有効としてきました。競技中に規則上求められている他のかけ声についても同様に扱ってきました。

東京オリンピック・パラリンピックを控え今後海外選手の国内大会への参加増加が予想されることや、多くの非英語圏の国々においても母国語でのかけ声は無効とされていることなどを背景に、これらの規則上求められるかけ声の完全英語化について以下の通り決定いたしましたのでお知らせいたします。

1. セーリング競技規則(RRS)2017-2020 の日本語訳(ルールブックの発行)において、RRS 中のかけ声の訳語について以下の通り変更する:

英語原文	現行訳	改訂後
“Protest”	「プロテスト(抗議)」	「プロテスト」
“Room to tack”	「ルーム・ツー・タック(タックするルーム)」	「ルーム・ツー・タック」
“You tack”	「ユー・タック(タックせよ)」	「ユー・タック」

2. 2017 年 1 月 1 日以降、全ての国内の大会において「プロテスト」のみを有効なかけ声とし、「抗議」のかけ声は無効とする。

目的「国際規則への統一化」

- ・国際標準用語(かけ声)の日本人セーラーへの浸透。
- ・国内大会に海外選手が参加する場合に予想される混乱の回避。

依頼事項

- ① 貴団体所属の会員の皆様への周知をお願いします。添付の周知用資料をご利用ください。
- ② 2016 年 12 月 31 日以前に主催される大会において、貴団体のご判断で可能な場合、本改定を先行して適用して下さい。その場合:
 - (a) 添付の掲示用通告文書(例)を、大会公式掲示板に掲示するほか、参加艇への十分な周知をお願いいたします。
 - (b) 大会プロテスト委員長を務められたジャッジの方は、大会後に提出いただくレガッタレポートの特記事項欄に、本改定を先行して適用した旨を記載して下さい。

(公財)日本セーリング連盟
会員各位

『抗議！』のかけ声は無効になります

抗議の要件の一つである かけ声「プロテスト(抗議)」(規則 61.1(a)参照)について:

従来国内大会においては『プロテスト！』だけでなく『抗議！』も有効としてきましたが、2017年1月1日以降は『プロテスト！』のみが有効で『抗議！』のかけ声は無効になります。

- 抗議するときは、『プロテスト！』と声をかけて下さい。
- 『抗議！』のかけ声は、日本人同士であっても、相手に抗議の意志が伝わったとしても、無効になります。

相手艇の抗議の有効／無効に関わらず、自艇の違反に気付いたら自らペナルティーを履行して下さい。

- 2017年1月1日以降は、全ての大会で適用されます。
- 大会によっては、先行して適用されることがあります。

大会の掲示板やスキッパーズ・ミーティングでの説明に注意して下さい。

2015年3月
(公財)日本セーリング連盟
ルール委員会